

## 第114回 光応用・視覚技術委員会議事録

平成19年11月2日

光応用・視覚技術委員会

委員長 高橋信一

日時：平成19年7月20日(金) 14:30~17:30

場所：日本交通協会第1会議室

出席者：高橋委員長、岡田、亀井、玉川、中瀬、神野、堀内、綱脇 各委員、

本田、木下 各幹事

配布資料

- No.114-01 第113回光応用・視覚技術委員会議事録(案)
- No.114-02 第71回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
- No.114-03 第72回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会議事録
- No.114-04 新しい光源とモデリング・計測調査専門委員会活動方針及び報告書
- No.114-05 第5回安心・安全のための赤外線技術調査専門委員会
- No.114-06 次世代光源調査専門委員会設置趣意書
- No.114-07 第22回光源物性とその応用研究会講演募集
- No.114-08 光応用・視覚技術委員会平成18年度活動
- No.114-09 光応用・視覚技術委員会名簿
- No.114-10 光応用・視覚技術委員会活動方針
- No.114-11 A部門技術報告の発行・売上状況表

議事

### 1. 前回議事録確認

配布資料 No.114-01 に基づき、本田幹事より前回議事録が読み上げられ、以下の修正を行って承認した。

#### 1) 2. 1 A部門研究調査運営委員会報告

「(第2回)」を削除

### 2. 報告および審議事項

#### 2. 1 第71回A部門調査研究運営委員会報告

高橋委員長より配布資料 No.114-02 に基き、第71回A部門調査研究運営委員会の報告及び連絡事項について以下が報告された。

##### 1) 技術者教育委員会より

民間企業の技術者再教育を行う。技術者継続教育(CPD)を大田区、川崎市で10~1000人規模の企業を対象に行う。

##### 2) 卓越技術DB推進委員会より

A 部門ではデータカードが 20 件集まった。小学生向けにリライトを行っている。

- 3) 平成 19 年度電気学会主催公開シンポジウム開催について  
シンポジウムを年 2 回開催する。「電気はどうやって運ばれるの? - 大停電を防ぐには」九州開催分は 8 月開催を予定し、実行委員会を直ちに立ち上げる。
- 4) 電気技術発展の長期ビジョンについて  
電気技術発展の長期ビジョンロードマップ(添付資料 AR-72-2-1 と 2) が説明された。
- 5) 学術情報システム構築 WG 検討報告について  
学会情報(冊子、論文誌、大会資料、技術報告)の電子化を検討している。  
電子アーカイビング・オンデマンド出版、外部システム委託を来年から構築する。
- 6) 平成 20 年度部門大会は千葉工大で開催することになった。
- 7) 進歩賞、技術報告賞を A 部門からは推薦できなかった。6、7 種の賞があるのに積極的でなかった。技術委員会に推薦を依頼するのではなく、システムティックな推薦方法を検討すべきとの意見があった。
- 8) 技術報告・研究会資料など電気学会が発行する図書類の電子アーカイブ化と販売方法を検討するプロジェクトチームが発足した。
- 9) 編修会議より。学会誌・論文誌の電子化について課金方法を含めて検討している。
- 10) 共通論文誌発行に伴ない将来的に論文誌収入の減少が予想されるので編修委員会で検討することになった。
- 11) 平成 19 年度 A 部門予算二次案が説明された。
- 12) 部門主催の国際会議の繰越金(収支差額)は当該部門活動費とし、組織委員会は部門活動資金により必要経費を調達することが提案された。
- 13) 共通英文論文誌の SCI 登録を実現するため、A 部門誌の英語論文を共通英文論文誌に回して欲しいとの依頼があった。
- 14) ICEE 日本委員会より。文部科学省科学研究費補助金の申請を行ったが、採択されなかった。
- 15) A 部門フォーラム試行の検討について  
電磁環境、誘電・絶縁材料、放電、マグネチックスは試行を検討することのこと。パルス電磁エネルギー、プラズマは方針不明、他はテーマ設定と集客が困難と判断した。  
誘電・絶縁材料は東京支部講習会を A 部門フォーラムとすることが可能だが講習会との違いを明確にする必要があり難しい。出来るところから提案し、実施することになった。19 年度は電磁環境の 1 件が見込まれる。

## 2.2 第 72 回 A 部門調査研究運営委員会報告

高橋委員長より配布資料 No.114-03 に基づき、第 72 回 A 部門調査研究運営委員会の報告及び連絡事項について以下が報告された。

- 1) 構成員が交替し、前田委員長(理研)、井上(光)副委員長(豊橋技科大)が退任し、

湯本雅恵（武蔵工大）委員長、武藤浩隆（三菱電機）副委員長が就任した。

2) 編修会議より

アーカイブ化された学会誌・論文誌のダウンロード料金が検討されている。会員外は1論文あたり2000円で公開後3ヶ月から利用可能。

3) 大阪大で開催されたA部門大会は176件の申込みがあった。

4) 卓越技術DBの作成進行について。データベースのモニター公開を予定している。

1980年代の技術を扱う。中学生向きリライト、英文化には費用問題がある。

5) 調査専門委員会の解散・新設について

解散報告を技術報告でなくて学会誌の解説記事にすることが提案されたが、原則を守る方向で再検討するよう要請された。セラミックス、電磁環境、放電でA部門フォーラムを開催する。

6) 研究会開催、論文数増強を進めていく。

7) A部門役員会より。E準部門が部門に昇格することになった。

8) マスタープランに基づくアクションプラン策定に関連して

電気学会活性化のため、電子化(2500万円)、英文誌の充実、調査専門委員の会員比率見直しを進める。

9) 寄付金の使途の検討について報告された。

10) A部門は表彰の推薦に消極的過ぎるので、推薦のルーチン化を検討する。

11) 編集会議、編修委員会より

- ・著作権譲渡方法をPDF添付(自筆署名)にする。
- ・論文投稿資格を非会員可とする方向である。
- ・JSTによるアーカイブ化については1論文あたり2000円の料金と公開3ヶ月後からの利用とする。共通英文論文誌はJohn Wiley & Sons社と意見交換の場を作った。
- ・共通英文論文誌との連携を図るため、A部門誌の英文号は平成20年8月号から偶数月にすることになった。
- ・特集の論文が10編程度しか集まらない。査読者選定が困難である。技術委員会のサポートが必要。

12) 放電と誘電・絶縁材料より提案された新設調査専門委員会を単独の技術委員会による専門委員会にせざるを得ないので、主となる技術委員会を決めて合同調査専門委員会の設置を認めるようにする。研究会の資料についての予算立ては検討中。

13) 国際会議の開催などの支援方法に関するアクションプラン策定を進める(添付資料1)。

14) 研究会論文の投稿は10月以降電子化しPDF提出となる。

15) 全国大会シンポジウムを10月に開催する。8/6が回答締め切り。A部門は提案なし。

2.3 新しい光源とモデリング・計測調査専門委員会の活動方針および報告。

配布資料 No.114-05 を参照。

2.4 次世代光源調査専門委員会設置について

配布資料 No.114-06 に基づき神野委員が提案し、審議した。内容を修正して承認し、運営委員会に諮ることになった。

2.5 研究会について

配布資料 No.114-07 に基づき神野委員より照明学会及び応用物理学会の部門と共催で12/6,7に「光源物性とその応用」研究会を開催する旨提案があり、承認した。

2.6 見学会について

綱脇委員及び堀内委員より堀場製作所(8月)、J-PARC(11/16 または 11/30)で見学会を行う提案があり、承認した。

2.7 各調査専門委員会から本年度のトピックスを集める時期になり、各委員長に原稿の依頼があった。A部門誌及びEINA、光応用・視覚技術委員会ホームページに掲載する。

2.8 光応用・視覚技術委員会の活動内容の広報について

配布資料 No.114-10 を A 部門大会 (大阪 8/27,28) でポスター掲示する。

2.9 A部門技術報告書の発行・売上状況について

配布資料 No.114-11 に基づき高橋委員長が報告した。年4回集計される。

2.10 本田幹事の後任として君島進氏(コバレントマテリアル)が就任することが承認された。

2.11 平成18年度、19年度活動計画について。

配布資料 No.114-08 に基いて、昨年度活動の確認と今年度予定を確認した。

2.10 次回委員会について。

日時：平成19年11月2日(金)14:30~17:30

場所：日本交通協会第1会議室

記録 木下  
以上